

愛知県公立高等学校入学者選抜方法協議会議議事録（令和6年度第1回）

日時 令和6年5月27日（月）
午後2時から午後3時40分まで
会場 愛知県本庁舎 正庁

- 開会 高等学校教育課主査
教育委員会挨拶 愛知県教育委員会教育長
議長・副議長の選出 議長（飯島委員） 副議長（米津委員）
議長挨拶
副議長挨拶
- 議長 令和6年度入学者選抜結果等について報告を受けた後に、協議に入りたい。
事務局から入学者選抜の実施結果等の報告をお願いします。
- 高等学校教育課担当課長 （令和6年度入学者選抜の実施結果等を報告）
- 議長 事務局から報告があった令和6年度入学者選抜の実施結果等について、質問はあるか。
- 坪田委員 合格者の学力検査得点の平均について、令和5年度入学者選抜では数学や国語の平均点が高く、難易度が低いため、得点の差がつきにくかった。令和6年度入学者選抜では、難易度が調整されてバランスのよい問題であった。また、外国語の平均点が上がった要因については、問題の難易度ではなく、今年度の受検生から小学校で英語を学んでいることにある。
- 議長 他に質問はあるか。
- 鈴木み委員 昨年の本協議会議で、欠員が多く県立高等学校の志願者が少なくなっていると聞いた。令和6年度入学者選抜で、昨年に比べて欠員が少なく志願者が増えたことは本協議会議で協議してきた入学者選抜制度の改善が、生徒のニーズに合ったことの結果だと思う。全日制課程の一般選抜で合格校がなかった受検者についてどのように対応しているか。
- 高等学校教育課担当課長 県内の国公私立の高等学校を受検し、合格校がない場合、第2次選抜を受検することができる。定時制課程後期選抜及び通信制課程後期選抜を受検する者もいる。

議長 他に質問はあるか。

河上委員 Web出願システムについて、大きなトラブルはなかったと聞いている。令和6年度の入学者選抜での反省点を踏まえ、システムの改修をすすめ、よりよいものにしてほしい。

新制度となり2年が経過したことを踏まえ、メリット・デメリットを分析し、制度の検証をすることが必要である。例えば、学力検査の回数が1回になったことで、プレッシャーを感じる中学生もいると聞いている。今後、制度の振り返りをお願いしたい。

議長 他に質問はあるか。

加藤委員 出願方法がWeb出願に変わったことで、高等学校教員の入学者選抜事務における負担が減った。私の勤務校では、第2志望校として受検する者が2日目の特別検査の集合時間に来なかったという事例があった。受検票に特別検査の日程が記載されていなかったことが原因の一つである。受検票の記載事項については見直していただきたい。

高等学校教育課担当課長 昨年度末に志願者、中学校、高等学校を対象にWeb出願システムの利用状況に関するアンケートを行った。現在は、このアンケートをもとに、改修すべき内容を精査している。委員ご指摘の受検票の記載事項については、改修予定である。システムの改修については、多くのご要望をいただいております。可能な限りご要望を反映させるよう努める。改修内容については、10月開催予定の実施要項説明会等で伝える。

議長 他に質問はあるか。

堀委員 Web出願システムではメールアドレスが必要となったが、外国にルーツがある志願者で、日本語が十分理解できず、メールアドレスを作れなかったため、出願を諦めてしまったというケースがあったと聞いている。Web出願システムを導入したために、出願を諦めた者について、県教育委員会は把握しているか。

高等学校教育課担当課長 中学校に在籍している生徒については、中学校に指導をお願いしている。県教育委員会に連絡のあった志願者については、従前どおり対面でWeb出願システムの操作も含めて出願の補助をした。また、出願者と連絡をとるために電子メールを送る場合は、

得る。

鈴木み委員 連携型中高一貫教育校について「地域社会と協力する」とあるが、地域社会とはどのようなものを想定しているか。

高等学校教育課担当課長 「地域社会」とは地元の企業、自治体などを想定している。

議長 ここから協議とする。

佐藤委員 入学者選抜制度の変更については、周知を早めにしていただきたい。早い段階で周知していただけないと中学生及び保護者に対して適切な時期に説明できない。

また、時習館高等学校はいわゆる進学校と言われているが、一方で全日制単位制高等学校は「全日制単位制高等学校にかかる入学者選抜」を実施することから、不登校生徒を対象とした高等学校であるというイメージがある。この選抜を不登校と切り分けするか、新しい選抜を実施するかなど、探究型の全日制単位制高校の入学者選抜についても協議していただきたい。

高等学校教育課担当課長 入学者選抜制度の変更については、可能な限り早く周知するよう努める。

牧野委員 定時制課程前期選抜で不合格となった後、定時制課程後期選抜に出願しない志願者が多いことが気になる。定時制課程の志願者は、不合格となった場合、前期選抜から後期選抜まで長期間入学者選抜の用意を続ける必要があることが一因かもしれない。

フレキシブルハイスクールにおける入学者選抜日程を考えると、通信制課程・定時制課程・全日制課程の3つの課程があり、1月初旬から3月下旬まで、すき間なく非常に長い期間になる。当該高等学校は在籍している高校生をしっかりと指導したいという気持ちもあるので、入学者選抜日程の変更を検討してほしい。

高等学校教育課担当課長 フレキシブルハイスクールの入学者選抜日程については、事務局としても委員ご指摘のことが課題と考えており、現在、変更する方向で、関係機関と調整しながら検討をすすめている。

田中委員 不登校生徒が全日制単位制高等学校に出願できることは、不登校生徒が社会に出るステップとして希望になり得る。可能な限り門戸を開いてほしい。

- 高等学校教育課担当課長 欠席日数が30日以上ある者については、出願時に「欠席に関する自己申告」ができる。中学校在籍時の状況を踏まえ、高等学校生活への希望や抱負について志願先高等学校に伝えることができる制度であるため、この制度の周知もすすめていきたい。
- 堀委員 志願者は学校の特色をよく考えて出願している。全日制課程における2校志願の制度を見直すことができるといい。
諮問事項は一つ一つの内容が重要な事項であるため、まとめにより、制度を変更する場合は、早めの周知をお願いしたい。
- 高等学校教育課担当課長 入学者選抜制度の見直しは、今後の状況の変化をみて検討したい。また、入学者選抜制度を変更する場合は、可能な限り早めに周知する。
- 石井委員 全国では過疎化に伴う路線バスの廃止等によって、通学に困っているという事例がある。群・グループを見直し、第1志望、第2志望で公共交通機関で通いやすい高校を選べるようにしてもらいたい。
- 高等学校教育課担当課長 群・グループについては、令和5年度入学者選抜から新しい制度で実施したところであることから、志願者動向の変化を踏まえつつ、時宜を見て検討したい。
- 坪田委員 特色選抜を開始してから2年経過したので、各高等学校において、どの選抜で入学した生徒がどう成長しているか検証してほしい。
調査書情報の学習の記録について、3年時のものしか使用しないのはよい。調査書情報における「行動の記録」、「出欠の記録」を選抜資料としないならば、調査書情報にこれらの項目は不要である。
- 議長 事務局には、特色選抜の合格者について追跡調査を行い、検証をお願いしたい。
- 高綱委員 特色選抜の趣旨を考えると、入学検査として基礎学力検査を選択している高等学校が38校もあり、多いと感じる。
- 高等学校教育課担当課長 特色選抜の趣旨を各高等学校へ説明し、求める生徒像に適した入学検査となっているか検討するよう進めていきたい。

栗木委員 調査書は、学校教育法施行規則において入学者選抜で資料とするよう定められている。不登校生徒が欠席が多いことを気にする一方で、欠席が少ない志願者はそれを評価してほしいと思っている。コロナ禍でわかったことだが、エッセンシャルワーカーなど、リモートワークが適切でなく、現場に出勤することが重視される職業もある。これらの職業につながる学科においては、欠席日数が少ないことも重要である。

加藤委員 高等学校としては、定時制課程において2回に分けて選抜するのではなく、1回にまとめてもらいたい。

また、全日制課程の第2次選抜の検査場、志願者をまとめて別会場で実施してほしい。

現行制度では、入学者選抜日程が長く、在籍している高校生の指導時間が十分に確保できていない。

議長 今後は、諮問事項について、さらに専門的な研究協議を行う必要があるため、専門員会を設置し、専門員会に付託することとしたいが、よいか。

(異議なし)

議長 事務局で専門員の案があればお願いしたい。

高等学校教育課長 (議長の指示により専門員の名簿を配付し、構成等について若干の説明)

議長 専門員の案について、いかがか。

(異議なし)

議長 異議がないので、案に示された専門員に、諮問事項の協議をお願いする。なお、専門員会については、入試制度の見直しに関する内容を協議するため、本協議会議の開催要項第8により非公開で開催したいが、よいか。

(異議なし)

議長 熱心な協議に感謝する。本日の協議はこれまでとしたい。

閉会の挨拶 愛知県教育委員会教育長

閉会

高等学校教育課主査